

組織風土の変革に向けたアクションプランの実施や拘禁刑の導入、犯罪被害者等の心情等の聴取・伝達制度の開始に加えて、今年12月には、再犯防止に関する新たな国際準則の採択が予定されているなど、矯正行政を取り巻く環境は大きく変化しています。

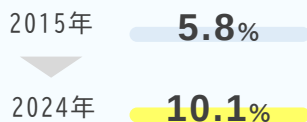
環境の変化に柔軟に対応しながら、拘禁刑時代にふさわしい処遇を実現していくため、ミッション・ビジョン・バリューを策定。その実現に向けた取組の方向性を「運営戦略2030」として決めました。

被収容者の特性の変化

高齢障害など福祉的支援のニーズが高く、個別対応が必要な受刑者の増加

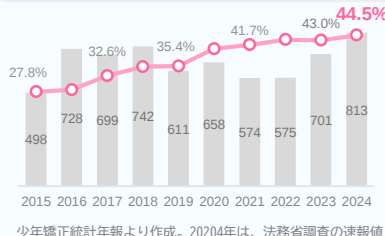
少年院収容される少年のうち、被虐待経験のある者の割合は上昇傾向

70歳以上の割合



矯正統計年報より作成。年末在所受刑者のうち、70歳以上の受刑者が占める割合
2024年は、法務省調査の速報値

被虐待経験のある者の数・割合



少年矯正統計年報より作成。2024年は、法務省調査の速報値

矯正施設が果たすべき新たな役割

- 被害者等の心情等の聴取・伝達制度の開始
- 懲役刑・禁錮刑から拘禁刑へ
- 再犯防止に関する国際準則の制定

改革を進める中で明らかになった課題

- 良い組織、処遇の定義やその状態を評価する方法がない
- ハラスメントの頻度の高さとそれによる心理的安全性の低下
- 社会とのコミュニケーションの不足

運営戦略2030

これからの矯正の姿を共に考えていく

安全、更生、健康幸福という3つの柱ごとに活動の方向性を盛り込む。

20年後に目指す姿／VISION

私たちの使命／MISSION

運営戦略2030

罪と向き合い、
社会とつながる場所

更生を信じる力で、
もっと安全で豊かな社会を

現在 期間：2025年7月～2030年6月 2030年

2045年

安全

これまでの当たり前を評価し時代に合わせて更新する

暴力や差別・偏見のない、安全な環境を守り、維持する。
職員が培ってきた処遇の技術や保安の原則など、これまで「当たり前」とされてきたことを改めて評価し、これに「ケア」などの考え方や近年の刑法等の改正の趣旨、国際的な動向も踏まえながら、これからの時代にふさわしい処遇の概念を再構築する。

- 拘禁刑にふさわしい処遇の実践、浸透
- 少年中心の少年院処遇の検証と再構築
- 少年の健全育成を図る場としての少年鑑別所の観護処遇の再定義
- 良い処遇の定義と必要なスキルの体系化
- 処遇全般の評価・更新 など

更生

当事者や社会と対話し、安全で豊かな社会を共に創造する

犯罪被害者等の声に耳を傾け、対話する関係づくりを進める。
「安全で豊かな社会」の実現に向けて、当事者の声も聞きながら、地域住民、自治体等の関係機関や企業・団体、研究者などと更生を考え、共に創造する。

- 心情等の聴取・伝達制度の適切な運用
- 自ら考え行動する環境づくり
- 償いと更生への内省の芽生え（個別的働きかけ）
- 各地域と施設の特色を生かした取組の推進
- 関係者との伴走による支援の切れ目をなくす など

健康幸福

職員の健康幸福／多様性、公平性、包摂性

職員が心身ともに健康で、社会的にも満たされた状態（Well-being）を目指す。職員のWell-beingの実現に向けた私たちの取組の方向性を多様性・公平性・包摂性／DEIの観点から検討。

- 研修の体系、内容や方法の更新
- 男性施設と女性施設など職員の属性や規模の異なる施設間の協働体制の構築
- 男性・女性職員の職域拡大
- 個人の強みや貢献など多様な視点による評価 など

戦略に基づく取組をより良いものにする活動

当事者を含む多様な視点の反映 / 研究する文化の醸成 / 国際連携 / 対話する広報 / 視察委員会によるチェック